

平成 26 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

懇談テーマ：暮らしやすいまちってどんなまちですか？

平成 27 年 1 月 15 日(木)10:00~12:00

健康福社会館 3 階 研修室

出席者 女性 19 人 12 地区

市長・企画部長

市長あいさつ

今年 2 月に中津川市が合併して満 10 年を迎えます。1 市 7 町村、全国の中でも多くの自治体と一緒にになりました。平成の大合併は、財政状況が厳しい中で、10 年間は特例を設けるので合併をと、国策として進められてきたものでした。まだまだ当初思い描いた理想の姿に届かないところがあります。合併した自治体は全国的に同じような課題を抱えているのが現状です。

そんな中で、昨年、日本創生会議が、2040 年には 20 歳から 39 歳の若年女性が 50% 以上減少してしまう都市を「消滅可能性都市」として発表しました。大変ショッキングな言葉です。名古屋でも同じ問題を抱えています。東京への一極集中、少子高齢化にさらに拍車がかかってしまうことが要因と考えられます。

国の施策では、地方創生、地域に U ターンしてもらい、住みやすい地域を創ろうということに力を入れています。2015 年の国予算では、子育て、医療・介護、地域創生という中での骨格が発表されました。各自治体が競ってこれからのまちづくりのアイデアを出しているところです。中津川市も全国一律、まったく同じような施策をしては、地域創生、定住施策のためになかなか国の予算を取ることはできません。

4 月から 2027 年のリニアの開業までの 12 年間の中津川市の新しい総合計画を実行していきます。子育て、教育、福祉医療、生活環境、また、中津川市が取り組まなければならない大きなお金のかかる施策、リニアをいかに活用するのかということが網羅してあります。

リニアについては、昨年秋から 12 月にかけて、J R 東海が各地域での説明会を開催しました。市としては、地域の皆さんには心配、不安な点があると思いますので、岐阜県と一緒に J R に対し、住環境への配慮、納得のいく説明をしてほしいと繰り返し要望しています。昨年の 10 月に工事の着工認可がおりましたので、これから工事が進んでいく中でも住民への配慮をしっかりとってもらいたいという要望を重ねているところです。

このリニアが中津川市のまちづくりにすべて関わってきます。市の人口は合併時には 8 万 4 千人を超えていましたが、現在では 8 万あるかないかという現状です。

市政懇談会には女性の方の参加が少ないのが現状です。さまざまな面で女性の方のご意見を施策に取り入れたいという思いで意見交換会を開催しております。どうかよろしくをお願いします。

懇談内容（要約）

・〇〇さん

私は嫁いでこの市にやってきました。今4歳になる上の子が生まれて、育ててきたこの4年間は、市の方に支えていただき、すごくありがたいと思っています。最初はわからないことがたくさんあったのですが、子どもの医療費が無料なので、病院への「かかりやすさ」があって、ありがたいことがたくさんあるなどと思っています。

苗木保育園に子どもを預けているのですが、未満児の預かりがありません。下の子が1歳半ですが、4月から他の保育園に預けるという状況で、仕事を再開することを考えると、時間的に厳しいというのが正直なところですが。来年度から子どもの法律が変わるので苗木保育園もこの機会に変わればよいなど考えていたのですが、できないということで残念です。苗木はそういう方も多いのではと個人的には思っています。

市長

ありがとうございます。子育て環境がいいと言っていたのは、嬉しいことです。子育て環境の整備で、未満児保育、小学生の放課後の居場所の確保については、力をいれているところです。なかなか進められないところもありますが、大切な施策として新しい総合計画の中でも、未満児保育の充実を掲げています。

定住政策として重要なのは、医師はもちろん、保育士の方の確保ですが、難しいのが現状です。とりわけ、未満児保育では保育士の数も多く必要となってきます。難しいのですが、各地域で実施できるように取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

子育て政策室長

平成27年4月から「子ども子育て新制度」が始まります。未満児保育についても充実を図っていきたいと思っています。苗木地区の中には、苗木保育園だけでなく、民間の保育所もありますので、民間の保育所とも連携し、なるべく皆さんの仕事と子育ての両立が図れるような子育て環境を作っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

・〇〇さん

私も東京生まれで、10年前、ちょうど合併直後に加子母に移住してきました。夫も県外の人で、1ターンで夫婦で農業をしております。来てすぐに妊娠しましたが、最初に母子手帳をもらったら、すぐに保健師さんから連絡がきて、母親学級に入れてもらって、学年全部のお母さんと知り合える環境は本当に助かりました。子育ての相談にのってくれて、こんなサークルあるよと引っ張り出してもらえました。

加子母保育園の未満児は2歳児から、1歳児は付知で、二人目は1歳3か月から付知に預けさせてもらいました。付知までというのはなかなか難しい環境でもあり、加子母では「出産＝退職」またはおばあちゃんに預けるのが普通です。

自分の子育てのなかで思ったのは、お母さんたちは結構時間があってパワーもあるし、もったいないから、同じような人たちが交代で子どもを見ながら、仕事ができるというということでした。やはり、完全に預ける、完全に仕事に就くということは加子母のようなところだと難しいので、そういうところもあるといいなと思っています。

・〇〇さん

小学校に入られると、帰りが早いので、学童保育に預けられることがあるのですが、学童保育は金銭面で大変です。どうしても預けて働きたいが、学童保育には月1万円かかり、月に1万円払うのはとても大変だと聞きます。働かなければならないため、実際に困っている人もいますので、学童保育を生活のレベルに合わせた金額で預けてもらえるような方法をとってもらえると、安心して働けることにつながると思います。

市長

加子母は今、他県から加子母がいいと目指してこられた方も住んでおられて、中津川市でも魅力のある地域です。加子母の皆さんは中津川市で一番、過疎になってしまうのではないかと、まち協の皆さん、市民の皆さんが学校の部会等も作られて、地域の事を考えようという取り組みをされています。

また、域学連携として全国で14大学の延べ人数で4千人以上の学生が加子母で勉強されました。学生は地域で勉強し、地域では学生の知識を活用していただくものです。さらに、他の大学の単位取得が自分の大学で通用するなど、非常に幅広くやってくれました。他の地域では難しく、国の事業は今年からなくなりましたが、加子母は見事にこれをやり遂げました。市では引き続き坂本、蛭川地区で新たに域学連携を始めました。1つの大学が中津川市にできる以上に効果があるという評価をいただいております。

そして、働く場所についてですが、働くのには子育てが大変で時間がないが、一日2、3時間の自分の好きな時間に働きたいということを行政では思うように進めることができません。地域では仕組みを作ってさまざまな仕事をされている例は出始めています。各総合事務所や定住推進部にご相談にいただければ、ノウハウや支援ができることもあります。ぜひ総合事務所を活用してください。

また、加子母の道の駅には管内だけでなく管外からもお昼に足を運んでいただいています。地元産の安全な野菜で作ったヘルシーメニューを多くするなど、地域の特色が現れています。ぜひ、ランチに加子母へ足を運んでほしいと思います。

生活レベルに合わせた学童保育の金額設定というご意見をいただきました。放課後学童クラブはまだ歴史が浅く、各地域に整備を始めました。行政としては、学童の皆さんの安全安心をしっかりと守るという使命もあります。学校の中で、放課後、教室の1つを学童保育に利用する仕組みを作ってほしいと要望しています。ただ、万一、校舎内でさまざまなトラブル等があった場合に教師としての責任の所在がまだ完全に整備されていません。市内で1カ所モデル地域をつくってほしいとお願いしております。施設整備が金額設定にも関係すると思いますが、生活レベルについては議論を

しておりませんでした。歴史を重ねていく中で、取り入れることができるかを合わせて検討していただきます。いいご意見をありがとうございました。

子育て政策室長

学童保育所は市内に 17 ヶ所ございます。施設については市の方で責任を持って整備して行こうと考えていますが、運営については父母会にお願いしている状況です。学校の施設が使えないかということで、学校と連携を計りながら整備を進めて行こうと思っているところです。

保育料はそれぞれの学童保育が設定した金額で、高いところで 1 万円以上になるところもあります。そういったところも施設を市が準備して家賃がいらなくなるなどして安定して運営ができるといいと思っているところですが、すぐには進まないのでも申し訳ありません。

・〇〇さん

我が家にも一人年寄りがいるので、お年寄りの話をさせていただきます。体は元気ですが、気が滅入ってしまうことが多くて、病は気からというか体調が悪いということが多いです。今、社会福祉協議会の方で「お達者クラブ」に誘っていただいて、しぶしぶ行き始めたのですが、今は楽しくなって喜んで行っています。お年寄りも人口割合が多くなっていますし、お年寄りを元気にすることが暮らしやすいまちにするには大切なことかなと感じます。年寄りが暗いとこちらも前向きに考えられなくなるので、お達者クラブはすごくありがたいです。家族で同居していてもなかなか話をじっくり聞くことができないことが多いです。世代が違っていると本当の気持ちが計り知れないことがあり、同世代と一緒に話せる機会がすごく大切なことだと思います。これからもそんな機会を作っていただけたらと考えています。

・〇〇さん

高齢者というのは話をしない、話を聞いてもらえないということがあります。同居している人も毎日の事なので、いい顔をして話を聞いてあげられないということは当然だと思います。中津は地域ごとにサロンというものがあります。1 ヶ月に 1 回集まって、高齢者の人に 100 円だけ持ってきてもらって、スタッフがお菓子を作るなどして、2、3 時間ワイワイしゃべるといふ会があります。始めて 4 年になりますが、毎月 1 回楽しみにしているって、みんなニコニコしてやって来られます。中津川市全体で行政にやってもらうのではなく、若い人は子育てで忙しいので、地域でちょっと年を取った人がリーダーになって、自分たちも楽しんでやるという気持ちを持って、お年寄りが集まれる場所を提供していくことは良いことだと思います。

市で介護予防に力を入れているということは知っていますが、市で行っている生活面のアンケートを正直に書いた人は病気の始めということで、福社会館で介護予防の会をやっています。人数が限られています。付知や川上に高齢者が 500 円くらいでプールに入って運動してお風呂に入ってみんなが歓談する場所があるわけですが、中津

はそういう場所がないです。月に1万円も出せばプールには行けますが、お金をかけずに500円くらいで、みんなが自由に行けてお風呂も入れてプールも入れて運動もできる気軽に集まれる場所を、将来考えていただければと思います。介護予防につながると思います。

市長

1市7町村の合併で、あちらの地域にあるけどうちの地域にはないということが起こりました。それぞれの地域が重点をおいて施策を打ってきた、それぞれの経緯があります。議員の皆さんからもご意見をいただいておりますが、これはそれぞれの施策の違いであって、いくら良いものでもこれから作るのはなかなか難しい。むしろ、複数あるものを1つに、場合によってはゼロにしなければならないというのが中津川市の合併の現状ですという話をさせていただいております。

クアリゾート湯舟沢はまさにそういった施設を目指して作られたわけです。当初は30万超の人が来ていましたが、今は14万人程度で、半分以下です。お金があればいくらでも施設は作れますが、本当に皆さんが大切に使用いただけるかどうかの問題です。今後心配しているのは、川上、付知、福岡の施設です。場所、距離の問題はありますがクアリゾートという施設があります。無料バスも出ておりますので、ぜひご利用をお願いします。

中津川市は老人クラブに1万2000人を超える会員登録があります。中津川市の倍の人口の大垣市の老人クラブの会員数とほぼ同じです。これが中津川市における地域の大きな力になっています。小学校の皆さんの登下校、地域の見守り隊、さまざまな面で役割をしっかりと果たしていただいております。生きがいにも結び付くと思います。地域のサロンの開催なども、支援できると思いますので、ぜひ市の方に相談していただきたいと思います。

・〇〇さん

シニアボランティアとして、加子母小学校で高齢者の疑似体験の発表会を見させていただきました。子どもさんたちが発表会をしてくれたことにすごく感動しました。高齢者の方たちの困っていることを子どもさんたちがこれからは助けてあげたいという素直な気持ちを聞いて安心しました。こういうことを自然と小さいときから教育していくことで、大きくなってから助けていただけると思いますので、大切だと思いました。加子母にはよく出かけますが、加子母はとても良いところです。

・〇〇さん

私も実は出身が加子母で、85歳の母親が一人で暮らしています。今は趣味を持って元気でやっているのですが、住まいがすごい坂の上で、足にガタがきていて大変です。加子母にはタクシーがなくて、周りの親戚もみんな年を取ってしまって、車に乗る人がいないので、買い物も隣の人が行くときに乗せてもらうという状況です。加子母は住むにはいいのですが、足がないと不便で仕方ありません。年寄りにとっては坂道が

多くて苦勞しています。

うちの母親は合併して何もいいことがないと言います。合併前には「いきいき教室」があって、いろいろ連れて行ってもらったりしていたのに、ここ数年でなくなってしまって、ひたすら自分の趣味をするくらいだそうです。年を取ってからの不便さについて考えてもらいたいと思います。

・〇〇さん

付知町ではまちづくり協議会が中心になりまして、買い物難民をなんとかしようということで、あるお店が市の補助金でバックアップしていただき、移動買い物車を作られました。なるべく近くの所に行き、3、4軒が集まって買い物をするようにしています。付知町では委託された方が、1時間200円くらいで買い物や病院に連れていく役目をやっています。たぶん加子母でもあると思うので、一度聞いてみるとわかると思います。

・〇〇さん

加子母ではコミュニティバスがありますが、午前中だけで2周するくらいしかなくて、病院に行って薬をもらって帰りに乗るといった感じです。ほとんど利用者もなくもったいない感じがします。便数が増えればいいとは思いますが、午前中だけというはすごくもったいないと思っています。例えば、放課後回ってもらえれば、加子母の子どもたちは近くに遊び相手がないので遠くまで行くのですが、一人では行けないので、そんな時にもコミュニティバスが使えるといいと思います。

・〇〇さん

馬籠の峠地区でも同じような状況です。2、3年前に冬に一回、コミュニティバスを出してもらいました。その日に病院に行きたい人はいいのですが、別の日にいる先生にかかりたいという場合には利用できないので、バスの利用者は少なかった。バスを利用しないで、馬籠まで歩いていくという人もいます。200円を出して援助の車を利用する方もいますが、なかなか外に出てこない方もいます。地域で一生懸命活動されている方がおばあさんの家を訪ねてついでに乗せていくということもあります。各地域によって事情が違ふと思いますので、コミュニティバスも詳しいことを調べて出していきたいと思っています。細かいことが高齢者の方には必要だと思います。この曜日はどうか、病院に行く人を取りまとめて行けないかという連絡があれば利用者も増えると思います。

高齢者も自分たちは元気だから歩いていけるといいますが、山から雪の中を歩いてくるといことは危険なこともあり心配しています。また、除雪も大きい道はしてもらえますのですが、ちょっと山に入るとやっていただけない。そういう状況では年寄りには外に出られないという話を最近しました。

・〇〇さん

コミュニティバスは阿木でも走っていますが、加子母の方が言われるように学童も利用できるような方向で工夫していただけるといいなと思います。

阿木の診療所は週2回午前中にしか開いていません。慢性的な疾患などで定期的に通うにはいいのですが、子どもを育てる側としては突然子どもの調子が悪くなった場合には、阿木だと一山超えて病院に行く必要があります。阿木の診療所が一週間開いている病院だったら、子どももかかることができると思うので、診療所の充実をお願いしたいです。

市長

中津川市は合併にあたり、面積が琵琶湖と同じ広さになり、隅々まで漏れなく対策をするということは非常に難しい状況であります。

コミュニティバスはまずは市内一律に運行できるように準備していますが、お話しの方は、コミュニティバスだけでは解決できない内容です。コミュニティバスは路線を走るの、うちから出るという段階からの問題だと、それぞれの地域の委託サービスの利用などで考える必要があります。そういった方法もありますので、事務所で相談できるといいと思います。

また、高齢者の買い物についてですが、付知の商店が専門のバスで移動販売を行政と一緒にやってやっています。このことについては非常に私も心配です。さらに、元気だけ出ていく手段がないという問題と、家から出ることができないという問題は、同じ高齢者対策でも中身は違います。この二つをしっかりとやるためには、地域の皆さんの力も借りなければならないところもあります。

企画部長

コミュニティバスを学童が使うことは可能ですが、あくまでも自家用車やバスなどの交通手段がない方のためのものですので、学童となるとちょっと意味合いが違ってきます。それに対して、コミュニティバスを使うのは難しいと思います。

市長

診療所についてですが、派遣する医師の確保が十分できないと診療所に行ってもらえません。定住という言葉で表しましたが、医師もここなら行ってもよいと思えるようにする仕組みを作っていく大切さを痛感しております。現状で週2日以上となると無理ですが、決してこれでいいということではないので、ご理解いただきたいと思います。

残念なことですが、「合併していいことが何も無い」とよく言われます。しかし、合併せずに10年経った場合に、今どういう状況になっているかわからないからこういった話になってしまいます。各地域が合併しなければならない財政状況だったことをご理解いただきたい。合併をするとバラ色になるとは説明をされなかったと思います。私自身は、このままでは行政が立ち行かなくなるので、10年間の特例期間を利用して

新しい中津川をつくっていくのだと理解していました。これから住んでいただく中で、合併してよかったとと思っていただけるようにしていこうという強い思いがあります。

除雪についてですが、市内で雪が降るときはいろいろな地域で一度に降りますので、まずは通学・通勤の道の確保を優先させていただいております。除雪車を増やすことは現状では難しいことをご理解いただきたいと思います。

・〇〇さん

1つお願いしたいことがあります。山の下の方の地域は雪が降ってなくても、上の方は降っている場合がありますので、融雪剤をしっかりとまいてほしいと思います。山の上の方だけが凍っているときがあります。私たち女性は子どもの送り迎えに怖い思いをしています。こういったこともお願いします。

市長

これはしっかり事務所の方に言います。本庁にいて本庁だけの発想だと届かないことがあると良く言います。そのために総合事務所がありますので、そういったときにはぜひ連絡を入れていただきたいと思います。

・〇〇さん

融雪剤を加子母はしっかりまくので溶けているのですが、付知側の峠を降りるところはまく時間が遅く量も少ないので全然融けません。今年の凍結はひどいとわかっているのですが、常に通行止めになったり、事故が多発したりしています。融雪剤をまく土建会社がそれぞれで時間を決めてまいていると思いますが、なんとか雪が凍結のときはもっと早くまいてもらいたいです。

市長

付知から加子母に抜ける峠のところは雪が降るとすぐ積もります。それは地熱が関係してきます。早くまいた遅くまいただけでなく、光の当たる側と日陰になる部分、地熱の違いによっても効果が大きく違います。峠のところは国道の中では凍結のひどいところですよ。除雪も含めて対策していかないと、融雪剤だけでは効かないです。皆さんも融雪剤がまいてあるから融けるから大丈夫とは思わないでください。融雪剤だけではなく、対策を検討させていただきます。県と国の方に要望します。

・〇〇さん

今、里帰り出産が禁止されていると聞きましたが、どうなのでしょう？里帰り出産ができないところはダメなところだからと出て行ってしまう人が出てくるような気がしました。リスクがあるとは思いますが、それを受け入れることで懐の深い市だということで、たくさんの方が移住してくれるのではないかと思います。

市長

今日の資料の1ページをご覧ください。平成19年から里帰り出産ができない状況でした。産婦人科医師が常勤で2名しかいない中で、月の受け入れ件数も30件という状況でした。今年の4月から民間の医療法人ですが、中津川市の出産を受けていただけるということで、里帰り出産と出産の受け入れ制限も解除させていただきますので、よろしくをお願いします。

・〇〇さん

ありがとうございます。ぜひ、里帰り出産ができることをあちこちに知らせていただきたいです。まずは、産まないと子どもは増えないということですずっと考えていましたので、ありがとうございます。

また、私も今学童保育の指導員をやっております。学童保育の歴史も浅いのですが、年々良くなってきています。補助金なども増やしていただき、学校を利用するという形で確保できるように取り組んでくださっていることはとてもありがたいことです。またこれからもよろしくをお願いします。

市長

行政が皆さんに知っていただいているという思い込みですね。里帰り出産できるようになりましたというのは、いろいろ広報しています。広報紙や懇談会の資料などにも載せているので、相当大きく広くPRしていたつもりですが、まだ知らない人がいるということがあるのは、我々も一度広報したから、何回しゃべったからOKではなくて、言い続けなければならないということを勉強させていただきました。ありがとうございました。

・〇〇さん

福岡には今、4校の小学校があります。それを統合するというお話を昨年あたりから聞いています。本当にそんなことができるのかとか、今ある校舎ではなくて中学校の隣に新たに作ると聞いているのですが、今ある校舎が耐震化もして使えるのに新しい校舎をつくるというのが、決定事項なのか案なのかわからない状態で終わっています。もう少し保護者にわかりやすく、どこまで話が進んでいますという確定したお話を出していただける機会を作ってほしいと思います。

市長

この話は進んでおります。学校規模適正化では、最初から福岡を4つの小学校を1つにするという話ではありませんでした。地元のまちづくり協議会の皆さんや区長さんなど4つの地域を代表する皆さんと一緒に話をしていただきました。その中で将来的に福岡の小学校を1つにしたいとご意見をいただいたところです。耐震化などそれぞれの施設の整備をつい最近までやってきた経緯がありますが、保護者さんには承認をいただいたという話を聞いています。それぞれの代表が集まって、学校でも委員会を

作って話し合ってきたので、行政としてもしっかり受けてほしいという話でした。

場所については、福岡中学校のあたりがいいのではという話になっております。今ある学校についてはいろいろな用途が考えられます。小学校も4つが1つにということと、保育園も4つあります。これからの福岡地域では、小学校だけでなく、保育園についても検討していかなければならないというのが現状です。

平成27年度から始まる総合計画の中では調査、設計が入っています。保護者の皆さんにはそういった方向だと話していただいているのですが、いつまでにこうしますという段階ではありませんので、よろしくお願いします。

また、坂本地域からは小学校の敷地が狭いということでご意見をいただいております。今のあの場所で校舎を増やすことはできませんので、幼稚園を移設して、空いたところに学校を増設するというように検討しております。

民間保育園4事業所も含めて、今後の保育園のあり方を考えたいと思います。ただ、将来的には幼稚園も含めた中であり方を検討していくことになるかと思っています。

・〇〇さん

環境についてお聞きしたいです。私は四ツ目川の奥の方の出身なので、桜が咲くといつも見に行きます。私の姉たちが青年会をやっていたころに、桜の木を植えて手入れをしてきたというのを聞きました。今、奥の方に行くところとすごく荒れています。お墓参りに行ってもさみしい気もします。恵那山のふもとの四ツ目川の奥の上流を見たいと思います。

市長

環境については中津川市の大きな売りですので、大事にしていきたいと思っています。言われるとおりで、四ツ目川だけでなく、木曾川に流れ込む川、付知川より小さな川は川床が同様に荒れています。国、県にも要望をしているところです。

四ツ目川は81年前に大変な災害があったところですが、国が管轄する4つの川の中でも、砂防という面では安全度の高い川になりました。まだまだこれからなのが落合川と子野川です。市民生活に影響があるところを優先しております。一度に整備できないので、順次やらせていただいております。

・〇〇さん

桜のほかに菜の花の生えている風景もいいなと思います。草より菜の花がいいです。

市長

今、神坂地域では花桃を毎年増やしていただいて、桜が終わって1ヶ月くらいあとに随分きれいに見られるようになりました。実は行政の方ではなかなかできないです。自助・共助という言い方をしていますが、ぜひ住民の皆さんのパワーをいただきたいと思います。

・〇〇さん

越県合併をしてから 10 年、先ほど、合併して何もいいことがなかったと言われましたが、馬籠地区は越県合併で小学校が統合されて悲しい思いをした反面、高校や将来については選択肢が増えて、大変感謝しております。いろいろ心配しましたが、子どもたちもごくごく普通に育って、1 人は中京学院大学の 3 年生です。

市と中京学院大学の包括協定で、たくさん市の行事などで大学生を使っていたいただいて、部活も含め大学と往復だけの学生が、まちの中に出ていけるようになりました。遠くから来ている学生が多いので、初めて来たという方も多いです。帰る前に中津川をもっと知って、帰ったらご両親にもお話して、また中津川に来てねと話しています。

その中で、就職はどうするの？と聞くと、帰る人もいますが、中津川で就職する人もいます。子どもも中津川も好きだと言ってくれています。就活が今年の 3 月に始まるので、今いろいろな企業を見ているのですが、中津川に対する見る目が変わってきていると思います。

資料の 14 ページの地域サポート事業については、これから募集していく事業でしょうか？

市長

これは 26 年度の事業で、27 年度の事業ではありません。域学連携などで、加子母のほか坂本、蛭川にも参加をいただいています。

これから 27 年度の事業計画を決めていくうえで、この 1 年の効果を検証します。加子母で大きな成果を上げていただいていますので、できればそれを各地域でもやりたいと考えています。地域では学生のサポート、例えば、宿泊費や食事代を安くしてもらうなどといったことや資料も提供していただいております。山口・馬籠も必ずできる地域だと思いますし、施設もあります。ぜひ手を挙げていただきたいと思います。

・〇〇さん

施設の話がありましたが、防災に使いたいと思っている施設の屋根が壊れています。以前から要望していますが、まだ直っていません。防災のことを考えると、馬籠は火事がありました。観光客も抱えています。これからスマートインターの話もあります。災害時には、観光客を受け入れなくてはいけない、高速を使っている方を受け入れなければいけない、ということを馬籠では思っています。防災の面でも、総合事務所とも相談をして力を入れています。学生さんも利用されています。防災のための施設では休養村センターと旧神坂小学校があります。耐震がない休養村センターの方は使えません。一人暮らしのお年寄りや動けない高齢者を抱えている家族は真っ先に安全なところへ誘導しなければと思います。どの地区の避難所についても、もう一度点検していただきたいと思います。

市長

災害のうち台風のように予測できるものはしっかりと事前に対応をということで、

昨年 10 月に初めて避難準備情報を出させていただきました。45 名の方が避難をされました。当初の台風直撃という情報から考えると、この人数は少なかったかなと思います。

避難先の安全確保ということで、避難所の調査を行います。昨年はまずふるさと学校のガス施設を全部変えました。また、限られた予算の中で優先順位をつけていますが、各出先事務所が地域の皆さんの声をしっかりと聞いて対応を組み立てることが大切。汗をかくことをしないで、ただ本庁がだめだと言ったからできないというのはおかしい、といつも言っています。

避難所の機能をしっかりと果たすために、まず耐震化、イエローゾーンなど場所の見直しからやっております。また、他の大震災と同じことを想定するのではなく、中津川市ではどういう災害でどういう状況になるか想定しなければなりません。市内の各地域がお互いに応援できる体制づくりをすることを重要です。また、市外とも相互に応援できるよう、エリアを広げて考え、仕組みをしっかりと作っていきたいと考えています。

日ごろの生活環境の良さを高めることが、国土強靱化にもつながると思っております。市においても安全対策は非常に重要な施策と位置付けておりますので、しっかりとやっていきます。

市長あいさつ

子育て施策、高齢者の対応、広くなった中津川市で各地域の市民生活の利便性を高めることなど、多くの意見をいただき、ありがとうございました。

定住施策の 1 つとして、市外の企業訪問で中津川市での事業展開をお願いしてきました。今ある企業に新しい産業が入ることで学生が選べる業種を増やしていきたいと思っております。

そして、国が進める地域創生では、どこのまちも抱えている問題は一緒に同じようなアイデアでは補助金が獲得できません。市の税金ですべて賄えればいいのですが、国の交付金に頼らざるを得ないのが現状です。リニア効果を取り込み、この 12 年間でなんとか交付金が少なくなっても頑張れる中津川市にするよう取り組まなければなりません。市民生活を高めることは毎年しっかりとやっていかなければならないことですので、今日いただきました皆さまのご意見を、市の施策にしっかりと生かせるように取り組んでまいります。ありがとうございました。